



日本民藝館 朝鮮陶磁コレクション
The Japan Folk Crafts Museum,
Korean Ceramics Collection

富本憲吉
Kenkichi Tomimoto (1886-1963)

バーナード・リーチ
Bernard Leach (1887-1979)

河井寛次郎
Kanjiro Kawai (1890-1966)

濱田庄司
Shoji Hamada (1894-1978)

ルーシー・リー
Lucie Rie (1902-1995)

上田恒次
Tsuneji Ueda (1914-1987)

島岡達三
Tatsuzo Shimaoka (1919-2007)

ハンス・コパー
Hans Coper (1920-1981)

武内晴二郎
Seiji Takeuchi (1921-1979)

藤井佐知
Sachi Fujii (1924-2015)

生田和孝
Kazutaka Ikuta (1927-1982)

森山雅夫
Masao Moriyama (1940-)

市野茂良
Shigeoyoshi Ichino (1942-2011)

兵庫陶芸美術館開館20周年記念特別展

MINGEI The Museum of Ceramic Art, Hyogo 20th Anniversary Special Exhibition ALIVE

— いま、生きている民藝 —

ボディル・マンツ
Bodil Manz (1943-)

清水俊彦
Toshihiko Shimizu (1945-)

黒田泰蔵
Taizo Kuroda (1946-2021)

柴田雅章
Masaaki Shibata (1948-)

ジェニファー・リー
Jennifer Lee (1956-)

安藤雅信
Masanobu Ando (1957-)

市野雅彦
Masahiko Ichino (1961-)

内田鋼一
Koichi Uchida (1969-)

清水剛
Takeshi Shimizu (1975-)

新宮さやか
Sayaka Shingu (1979-)

駒井正人
Masato Komai (1980-)

田中雅文
Masafumi Tanaka (1982-)

打田翠
Midori Uchida (1983-)

2025.9.6 | 土 | → 11.24 | 月・振休 |

【休館日】月曜日(ただし、9月15日(月・祝)、10月13日(月・祝)、11月3日(月・祝)は開館し、9月16日(火)、10月14日(火)、11月4日(火)は休館)

【開館時間】10時～17時(入館は閉館時間の30分前まで)

【観覧料】一般1,300円(1,000円)、大学生1,000円(800円)、高校生以下無料

※()内は20名以上の団体割引料金です。※70歳以上の方は半額になります。※障がいのある方は75%割引、その介助者1名は無料になります。

【主催】兵庫陶芸美術館、神戸新聞社 【後援】兵庫県、兵庫県教育委員会 【協力】丹波立杭陶磁器協同組合

土と語る、森の中の美術館



兵庫陶芸美術館 〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立杭4
The Museum of Ceramic Art, Hyogo TEL: 079-597-3961 (代表)
<https://www.mcart.jp>

駒井正人《土瓶》2020年
撮影: Shugo Hayashi



兵庫陶芸美術館開館20周年記念特別展

MINGEI

The Museum of Ceramic Art, Hyogo 20th Anniversary Special Exhibition

ALIVE

いま、生きている民藝



関連行事

記念講演&トークセッション

日 時 | 9月6日(土) 13時30分~16時(開場は13時~)

第1部 記念講演「いまなぜ民藝か」 13時30分~14時20分

講 師 | 鞍田崇氏(哲学者、明治大学理工学部准教授)

第2部 トークセッション 14時30分~16時

登壇者 | 鞍田崇氏(同上)、安藤雅信氏、内田鋼一氏(いずれも出品作家)

コーディネーター | マルテル坂本牧子(当館学芸員)

場 所 | 当館研修棟1F セミナー室

定 員 | 110名(事前申込制、先着順)

出品作家によるアーティスト・トーク

日 時 | 11月8日(土) 13時30分~(予定)

場 所 | 各展示室 ※参加作家は決定次第、当館ホームページにて発表いたします。

ワークショップ「スリップウェアに挑戦!ー白と黒の器をつくろうー」

日 時 | 11月16日(日) 10時~15時(予定)

場 所 | 当館エントランス棟1F 工房

定 員 | 20名(有料、事前申込制、応募多数の場合は抽選)

応募締切 | 10月21日(火)

当館学芸員によるギャラリー・トーク

日 時 | 9月20日(土)、10月18日(土)、11月1日(土)、11月22日(土)

いずれも11時から1時間程度(観覧券が必要です。)

※各イベントに関する詳細は当館ホームページでご確認ください。

1 田中雅文《Layer.series CLOUD 5》2018年 2 打田翠《心象》2024年 撮影:Masashi Kuromoto 3 新宮さやか《萼容 碗》2025年 4 河井寛次郎《土瓶&湯碗各種》1931-49年頃 河井寛次郎記念館 5 朝鮮《白磁壺》18世紀前半 日本民藝館 6 富本憲吉《色絵金銀彩四弁花文蓋付飾壺》1956年 兵庫陶芸美術館 7 内田鋼一《White Bowl》2018年 8 安藤雅信《泥釉シリーズ茶器揃》2024-25年 9 清水剛《刻紋銀彩向付》2019年 土岐市 10 ルーシー・リー《鉢》1951年頃 兵庫陶芸美術館 11 市野雅彦《采器》2019年

今からおよそ100年前、宗教哲学者の柳宗悦(1889-1961)によって提唱された「民藝(民衆的工藝の略)」。

それは、日々の暮らしに寄り添うものに美を見いだすという新しい価値観であり、提案でした。その対象とされたのは、用途に即してつくられた「手仕事」による生活道具。それは、近代化にともない、失われつつあるものでした。しかし、民藝が目指したものは、手仕事をそのまま保護するというよりも、その精神を正しく受け取り、新しい生活スタイルに合ったものづくりへと導いていくことであり、何よりも「生活の芸術(アート)」という、私たちが心豊かに生きていくうえで欠かせないものを手放さないという、一つの哲学であつたのではないのでしょうか。

生活道具の中でも、特に使用頻度の高い「器(うつわ)」は、民藝の「現代性」を体現するものといえるでしょう。民藝では、名も無き職人の手仕事、つまり「無銘性」が唱えられたことで、とすると、個人作家の美意識によってつくられたものを否定しているかのように思われがちですが、民藝の思想を深く理解し、その根幹を支え、現代へと橋渡しをしたのは、なんといっても、優れた創造性を持つ個人作家たちでした。その意味で、民藝はまた、現代において、実用品も手がける個人作家の存在意義を確かなものにしていても考えられます。民藝は、技術でもなければ、スタイルでもない。そのことをいま一度、考えてみたいと思います。

本展では、富本憲吉(1886-1963)、バーナード・リーチ(1887-1979)をはじめとする当館の現代陶芸コレクションの核となっている個人作家の器作品を展観しながら、柳が見つめた民藝の本質について、現代の視点から再考することを試みます。さらに、「いま、生きている民藝」の諸相について、現代の作家たちがつくりだす様々な作品を通して、いま、私たちが豊かで幸せであると思える暮らしと、そこに息づく「生活の芸術(アート)」について、思いを寄せる機会とします。

※掲載作品が出品されない場合があります。



同時開催のテーマ展 「丹波焼の世界 season 9」 開催中~2026年2月23日(月・祝)

2025年度著名作家招聘事業 特別展示「秋永邦洋 仮想の生命」 開催中~11月24日(月・振休)

次回特別展 「丹波焼の美ー田中寛コレクションを中心としてー」 2025年12月6日(土)~2026年2月23日(月・祝)

【交通案内】

【鉄道・バスをご利用の場合】◎JR福知山線「相野駅」下車(大阪駅から約50分) 駅前からウイング神姫(路線バス)「兵庫陶芸美術館」「こんだ薬師温泉」または「清水寺」行き乗車約15分、「兵庫陶芸美術館」下車 ※相野駅発バス時刻/9:33、10:15、13:10、15:45、16:45、土・日・祝は10:47、11:36、13:41が増便(2025年7月現在) 【自動車をご利用の場合】◎舞鶴若狭自動車道・三田西ICから約15分、または丹南篠山口ICから約20分 ◎中国自動車道・滝野社ICから国道372号を東へ約30分 ◎阪神方面から国道176号を北上し、三田市四ツ辻信号を左折約15分 ◎駐車場無料(敷地内 普通車58台分)、大型可 【その他】◎無料貸出有(車椅子4台、ベビーカー2台)

土と語る、森の中の美術館

兵庫陶芸美術館

The Museum of Ceramic Art, Hyogo

〒669-2135
兵庫県丹波篠山市今田町上立杭4
TEL 079-597-3961(代表)
<https://www.mcart.jp>

